



児童養護施設における医療化と子ども支援に関する研究

教育学部児童教育学科 准教授 吉田 耕平

キーワード

児童養護施設、医療化、ADHD

該当するSDGs



1 研究内容

近年、児童養護施設では ADHD(注意欠如多動症)などの診断を受け、向精神薬による支援を受ける子どもが増加している(図 1)。こうした変化の背景には、発達障害に関する知識の普及だけでなく、医療・教育・福祉の制度的な連携や、子どもの問題行動への対応の変化が関係していると考えられる。

私は医療社会学の「医療化論」の視座から、児童養護施設において ADHD 診断や向精神薬による支援がどのように広がってきたのかを研究している。特に、学校、児童相談所、医療機関、児童養護施設などの制度主体がどのように関与し、子どもの行動や困難が医療的な支援へと結びついていくのかに関心を持っている。

また、全国の児童養護施設を対象とした調査や施設職員へのインタビュー調査を通じて、診断や薬物療法の実態、施設職員が抱える葛藤やジレンマについても検討している。近年は、家庭的養育や施設の小規模化、ACE(小児期逆境体験)、トラウマインフォームドケア(TIC)などの視点を取り入れながら、社会的養護のもとで暮らす子どもへの支援のあり方について研究を進めている。

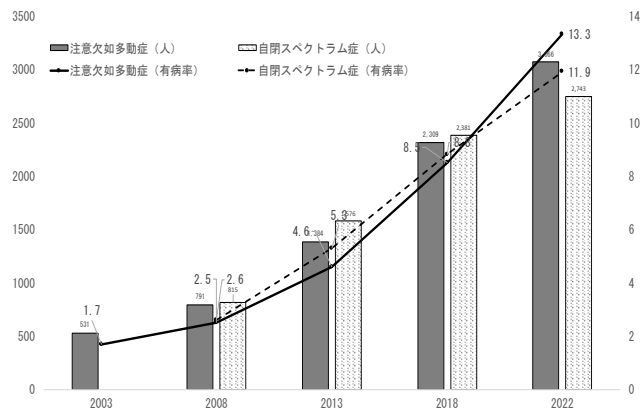


図1 児童養護施設における発達障害の診断を受けた子どもの推移(人)

厚生労働省が5年毎に実施している児童養護施設入所児童等調査を基に作成

2 連携可能性のある研究分野、又は、

これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- ・児童養護施設をはじめとする社会的養護の実践、子どもの医療的支援、発達障害・ADHD、ACE(小児期逆境体験)、トラウマインフォームドケアに関する連携および共同研究を希望します。

これまでの連携実績

- ・高等学校における探究学習支援・出張講座
- ・保育者・幼稚園教諭向け研修会講師
- ・保育補助者養成セミナー講師(社会的養護)
- ・教員免許状更新講習講師(児童福祉分野)
- ・保育士キャリアアップ研修等に関する講演・研修